

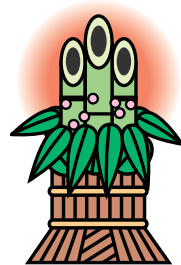
新年号

酪農

とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部本部部長、女性会本部会長挨拶
- 5 ページ 酪農フェア、ホルスタイン共進会
- 6～7 ページ 上半期事業報告
- 8 ページ TPP交渉断固阻止に向けた取り組み
- 9～11 ページ 東西南北、部課だより
- 12 ページ 理事会だより・市場成績



迎
春

謹んで
新春のお慶びを
申し上げます



新年の挨拶

代表理事組合長 菊池 一郎



組合員ならびにご家族の皆様方におかれましては、輝かしい新春を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

さて、組合は平成13年8月1日の県内6酪農協合併による創立以来10年の節目を迎えましたが、この間合併当初の3割にあたる200戸余の生産者が廃業し、500戸目前まで戸数は減少いたしました。しかし、飼料高騰や口蹄疫など幾多の危機的状況を乗り越えながら、年間20万トン余の生乳生産基盤を維持し、組織の合理化・効率化を図りつつ事業を展開してまいりました。

そのような中、我々は大きな壁

に向き合っております。それは、日本酪農の将来を揺るがし存亡の危機を招く恐れのあるTPPと放射能の2つの問題です。

震災から8か月目の昨年11月11日に、APEC首脳会合を目前に控えた状況で、民主党政権3代目となる野田首相は「TPP（環太平洋経済連携協定）交渉参加に向けて関係国との協議に入る」と政府の方針を表明しました。日本がTPPに参加した場合、農林水産省の試算によれば鮮度が重視される生クリーム等を除くほとんどの乳製品と、2割の飲用牛乳が輸入物に置き換わり、国産の56%の牛乳乳製品生産が失われると言われています。今後関係国との協議の中で、乳製品をはじめ米、小麦、砂糖など関税撤廃の例外品目として必要な国境措置を維持し所得補償など万全な国内対策を講じることもができるのか、農業経営者の大半はそのような疑問を将来不安に形を変えて危機意識を高めている

ことと思います。今後、医療など農業以外の分野の方々とも連携を強め、TPP交渉参加阻止に向けた国民運動が広がるよう活動を展開してまいります。

昨年末、厚生労働省は食品に含まれる放射性セシウムの新たな規制値を設定いたしました。現行の暫定規制値では「牛乳・乳製品」の分類で200ベクレル/kgでしたが、新たな規制値では乳製品を含めた「一般食品」で100ベクレル/kg、「牛乳」および粉ミルクなどの「乳児用食品」で50ベクレル/kgとし、本年4月からの適用を目指す方針です。これら厳しい基準をクリアするために、引き続き生乳や飼料等の放射性セシウムのモニタリング検査に基づき徹底した飼養管理が求められ、それら対応について予断を許さない状況です。

しかし、組合創立の原点に返り未来を展望するとき、どのような厳しい対応が求められるにしても、安全で安心な生乳の安定供給の歩みを止めるわけにはいきません。

我々は何を為すべきか、何が出来るのかと問い続け、あらゆる障害を克服し厳然たる難局を乗り越え、そして信頼され感謝される酪農・乳業を次代に継いでいけるよう組

織をあげて前進精励してまいります。

組合は、被災施設の復旧が完了し生乳生産も前年並の水準まで堅調に回復し、事業計画の達成に向けて事業を推進しております。そして、第3期中期構想（平成24年度～26年度）策定に向けて検討協議に入りました。構想がまとまり次第、出来る限り早い時期に地域別説明会を開催し、それら構想の内容や組合の生産動向、運営状況を説明のもと皆様方からのご意見を要望を拝聴し、組合運営に生かしてまいりたいと考えております。

東日本大震災に関わる復旧対応や福島原発事故に伴う放射能問題への対応におきましては、皆様方のご理解ご協力と行政をはじめ関係各位のご支援により大きな混乱を来すことなく組合運営ができました。あらためまして、皆様方の酪農とちぎに對するご厚情に心より御礼申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

結びに、皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申し上げますと共に、震災復興の灯がさらに輝きを増し、被災地はもとより日本全国が「昇龍」の如く活気と元気に満ち溢れることを願い、新春の挨拶といたします。



知事挨拶

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は、3月11日に発生した東日本大震災という未曾有の災害からの復旧・復興に全力で取り組んだ1年でありました。

我が国に甚大な被害をもたらしたこの大震災に対しまして、県では、地震発生後直ちに災害対策本部を立ち上げ、市町村を始めとする関係機関と密接に連携を図り、ライフラインの復旧、福島第一原子力発電所の事故に伴う対策など

復旧に必要な考え得る限りの手立てを講じて参りました。また4月には、震災復興推進本部を設置し、農林業や観光業等における風評被害対策、全県的な節電への取組など、復興対策にも全力を尽くして参りました。特に、原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響により県内の空気や水、土壌等に対する安全性が脅かされるとともに、ハウレンソウや牛肉など一部の農畜産物は一時出荷停止という事態に至りました。これらに対し、各種検査体制の確立や情報の発信等により県産農畜産物の安全・安心の提供と風評被害の払拭などに最大限の努力を払ってきているところです。

現在、地震による直接的な被害につきましましては、概ね復旧の目処が立ちつつあり、県内企業の生産活動も持ち直しの動きが表れてきておりますが、未だ収束しない原子力発電所事故の影響や電力供給不足の不安に加え、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉参加問題や世界経済の先行き不透明感、長引く円高とデフレ等により、景気回復の遅れが懸念されるほか、雇用情勢も厳しい状態が続いています。

こうした状況下において本年はまず、放射性物質に対する各種検査を徹底するとともに、12月に設置した「原子力災害対策チーム」を中心に、市町村と連携した取組を進めていくなど、皆様に安心をお届けできるよう努めて参ります。

また、昨年4月にスタートさせた栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」に掲げる「安心」「成長」「環境」の3つの重点戦略は、いづれも震災から立ち直り、新たなとちぎづくりを進めていく上で欠かすことのできない政策の軸となるものでありますので、引き続きプランの着実な推進を図って参ります。

酪農につきましても、牛乳消費の低迷等に加え、原発事故の影響もあり、厳しい状況が続いておりますが、県では、生産コストの低減や6次産業化等の推進を図るほか、あわせて安全安心対策についても積極的に推進して参ります。

本年5月には、東京スカイツリータウンに本県のアンテナショップ「とちまるショップ」がオープンします。任期2期目の仕上げの年を迎えるに当たり、今まで以上に本県の誇る食や自然、産業、観光、文化などとちぎの魅力を丸ごと発信し、県内26市町とともに東日本大震災を乗り越え、「新とちぎ元気プラン」に掲げた「元気度日本一 栃木県」の実現に向け全身全霊を傾けて参りたいと考えておりますので、より一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。



新年の挨拶

青年部本部部长 小森 崇宏



新年明けましておめでとうござ
います。皆様におかれましては、
益々ご活躍の事とお慶び申し上げ
ます。部員の皆様、組合役職員の
皆様には青年部活動に対し、格段
のご協力とご指導を賜り、書面を
拝借して厚くお礼を申し上げます。

さて、平成23年を振り返ると、
3月11日の東日本大震災と、原子
力発電所の事故による放射能汚染
の問題を忘れる事ができません。
地震による牛舎施設等の損壊、春
先の計画停電、放射能汚染による
自給飼料の給与制限等、県内各地
でその被害に差はあるものの共通
しているのは、大きな不安に押し
潰されそうになりながらも、気持
ちを奮い立たせて、日々の生乳生
産に取り組まれたことではないで

しょうか。酪農家はもちろん、酪
農関係者全員の協力により、栃木
県産の原乳からは暫定基準値を超
える放射性物質は検出されず、消
費者に安心安全な牛乳を届けられ
たことは、大変喜ばしいことであ
り、同時に生産者としての責任を
果たせたと思います。

平成23年を表す漢字は「絆」で
す。皆さんもご存知の通り、放射
能による汚染はその被害が長期化
いたします。あわせて今年はTP
Pへの参加交渉が本格化すること
でしょう。混沌とした情勢の中、
我々青年部員は、口蹄疫等の防疫
とあわせて、これからも飼料や資
材の管理をしっかり行ない、安心
安全な牛乳を通して、また消費拡
大・理解醸成活動を通して、消費
者との「絆」を強くしていきます。
青年部員同士も各種事業を通して
親睦を深め、青年部の「絆」を強
くしていきます。酪農発表大会等、
関係団体の事業にも積極的に参加
して、各地の酪友との「絆」を強
くしていきます。強い「絆」が明
るい明日につながると信じて活動
して参ります。
最後になりましたが、本誌読者の
皆様の益々のご発展とご多幸をご
祈念申し上げます、新年のご挨拶と致
します。

新年の挨拶

女性会本部部长 廣田 純子



新年明けましておめでとうござ
います。皆様におかれましては、
益々ご活躍の事とお慶び申し上げ
ます。女性会会員、組合役職員の
皆様には女性会活動に対し、格別
のご協力とご指導賜り厚く御礼申
し上げます。

昨年は東日本大震災により、甚
大な被害に見舞われ県内の酪農業
も多大な影響を受けることになり
ました。加えて原発からの放射能
汚染により地域によっては牧草の
給与が制限され深刻な事態に陥り
ました。さらに、農産物の風評被
害も起き、消費者がどれだけ安全
な物を求めているかが問われまし

た。
このような状況の中、一昨年度の
口蹄疫発生を受け、家畜伝染病予
防法が改正されました。女性会の
統一テーマ「徹底しよう、記帳と
防疫」がいかに重要かを再認識し、
更に安心で安全な生乳生産に努め、
自信を持ってPR活動を行いたい
と思います。

昨年12月に女性会全体研修会を
ホテルエピナール那須において酪
農とちぎ診療課長の吉成正晴氏を
迎え、「楽しくなる酪農経営とは」
と題し講話を頂きました。また、
栃木県女性農業士であり女性会那
須南支部長の興野礼子氏に「第3
期とちぎの農業・農村男女共同参
画ビジョン」について説明して頂
きました。

今年も私達女性の笑顔とパワー
で、絆を大切に活動して参ります
ので、皆様方のご協力宜しくお願
い致します。

最後になりますが、今年も皆様
の益々のご発展とご多幸をご祈
念申し上げます、新年のご挨拶と致
します。



栃木県酪農フェア

2011開催

10月8日、栃木県畜産酪農センター（旧酪農試験場）において、栃木県酪農協会主催、県・県内酪農協・とちぎ農作物マーケティング協会後援、県牛乳普及協会の協賛にて盛会に開催されました。

会場内は、ミルクの国ゾーン（ホルスタイン共進会、酪農関連業者の展示）、消費者とのふれあいゾーン（搾乳体験、子牛の哺乳体験、バター作り体験、ミルク入り豚汁等のフードコナー）と畜産酪農研究センター公開デーのイベントブースに分けられ、当日は晴天に恵まれたことから、酪農関係者のもとより一般消費者の方々も多数会場を訪れました。

搾乳体験、ミルク入り豚汁では、栃木県酪農青年女性会議会員より多数出役を頂き、搾乳体験では、牛体を間近で見て触れて、絞られた生乳の暖かさを感じ取ってもらいました。

また、ミルク入り豚汁は前日か

らの仕込みの甲斐もあり、コクのあるおいしい豚汁に仕上がりに、好評でありました。

本フェアが乳製品の消費拡大も含め酪農への理解促進に繋がったことと推察されます。



県酪農青年女性会議による牛乳入り豚汁



県酪農青年女性会議による搾乳体験

第22回栃木県ホルスタイン共進会

（株）十勝家畜人工授精所より山口寿典氏を審査員に迎え、未経産5部経産6部の全11部61頭の精鋭が県内より集結しハイレベルな改良成果を競い合いました。

組合主催の共進会が口蹄疫、大震災の影響により2年連続未開催でしたが、出品牛はいずれも管理の行き届いた状態であり、出品者の方々もさぞご苦労があったことと存じます。

当組合からは、那須塩原市の高塩久さんがインターメディアイト・チャンピオンに、那須烏山市のP-T H R E Eがシニア・チャンピオンに輝きました。



山口審査員

また、今回は那須拓陽高校が未経産の部でチャンピオンとリザー

ブチャンピオンの栄冠を手にしました。他校も含め本県酪農の次世代を担う生徒たちの更なる活躍を期待致します。各部の上位入賞牛は次のとおりです。

区	分	褒 賞	市 町 村	氏 名	出 品 牛 名	
未経産	第1部	優等賞1席	那須郡那須町	小松 俊介	マウンテンジャム ABLM ファースト ダンディー ET	
	第2部	ジュニア・チャンピオン	那須塩原市	那須拓陽高校	タクヨウ ハッピー ゴールデン サンチエス	
		優等賞1席				
	第2部	リザーブジュニア・チャンピオン	那須塩原市	那須拓陽高校	タクヨウ エルフィン キヤシー ナナ	
		優等賞2席				
	第3部	優等賞1席	那須塩原市	那須拓陽高校	タクヨウ ワーデン ダーナム リリー ET	
	第4部	優等賞1席	那須烏山市	P-THREE	セノーファーム チャーミー ジャスパー	
	第5部	優等賞1席	那須烏山市	松井 光	MM ブラック チャンピー	
	第6部	優等賞1席	芳賀郡芳賀町	大島 秀樹	BD Iファーム テツチエ シェーン	
	経産	第7部	リザーブインターメディアイト・チャンピオン	那須塩原市	真嶋 大輔	スノーライト バリ バリ ロス B フタゴ
			優等賞1席			
第8部		インターメディアイト・チャンピオン	那須塩原市	高塩 久	ハーネスファーム ゴールドスター ルル	
		優等賞1席				
第9部		優等賞1席	那須烏山市	松井 光	MM ファイナリスト レーダー	
第10部	シニア・チャンピオン	那須烏山市	P-THREE	パインツリー クリスマス サード ロイ ET		
	優等賞1席					
第11部	リザーブシニア・チャンピオン	日 光 市	植木 靖	プラントツリー AB ダンディー ET		
優等賞1席						



上半期事業報告について

震災で被災した組合の事業用資産の被害額は5600万円余のほりました。本所をはじめとする被災施設等の復旧を図り、一方では総会で決議いただいた事業計画及び固定資産取得計画に沿って事業の推進、事業用資産の取得を進めてまいりました。

上半期を総括すると、生乳生産量の減少傾向で生乳需給は引き締め、加工向け販売の割合が低く推移したことで、支払乳価は前年より高い水準でした。

組合の生乳販売事業は生産量の減少等により収支は計画割れでしたが、原発事故の影響により県内で牧草の利用が制限される中、代替飼料の供給対応等により購買事業の収支は計画を上回りました。各部門を合わせた事業総利益は3億8870万円（計画比96・2%）にとどまり、また震災復旧の

ため施設修繕や再取得の費用がかかったことから、事業利益は▲6375万円となりましたが、災害見舞金と災害損失特別勘定引当金取崩等により、税引前当期利益847万円（計画比57・6%）で上半期を終了しました。

事業計画の達成に向け、原発事故の各種対応に努めながら事業を推進してまいりますので、今後とも皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げます。以下各部門の事業を報告いたします。

1、生乳販売

生乳生産量は、震災や猛暑の影響により9万9946トン（前年比96・0%、計画比97・6%）でした。生乳販売高については、加工率が6・10%と前年より2・98ポイント下回り販売単価は前年、計画を上回りましたが、乳量減に

より106億546万円（前年比98・5%、計画比98・8%）でした。生乳計画生産の達成状況ですが、組合員への割当配分（申告）比で93・5%、関東生乳販連からの配分比で94・3%の実績でした。収支については、乳量減による販売費用・手数料収入の減少、関東における集送乳経費の負担見直しによる計画差異等により事業利益は2億4219万円（前年比96・9%、計画比91・1%）となりました。

2、市乳販売

震災復旧までに商品供給が十分に対応できなかったこともあり、「酪農牛乳」、「かましん牛乳」など販売数量は大きく落ち込みました。また、福島原発事故の風評により、消費者が那須の銘柄や栃木県産の商品の買い控えが拍車をかけ、「那須、だいき牛乳」は大幅に売れ行きが減少しました。しかし、「まごころ牛乳」はヨーカ堂のPB牛乳として各店舗で販売強

化が図られ、他商品が落ち込む中で計画を上回る販売数量となりました。販売数量は187万本（前年比64・9%、計画比81・1%）、事業利益は827万円（前年比48・2%、計画比89・9%）となりました。

3、購買

飼料供給量は、酪農中止者や生乳生産量の減少があったものの、混合飼料の利用増及び放射能汚染による代替飼料の供給増により、濃厚飼料は4万1192トン（計画比100・5%）、粗飼料は2万5864トン（計画比113・7%）といずれも計画増となりました。そのようなことから、利用奨励金は配合飼料で9372万円、粗飼料で2060万円、TMR等で571万円、総額1億2003万円（計画比102・4%）と計画を上回りました。収支は、飼料供給量増と計画外の利用高配当により事業利益は1億990万円（計画比106・1%）となりました。



4、酪農指導及び流通

酪農指導事業は、福島原発事故に伴う放射性物質の影響による一番草の給与自粛や計画停電、飼料の供給制限に伴う技術支援、牧草をはじめとした畜産物の損害賠償対応にあたりながら事業を推進しました。

ヘルパー事業は、震災の影響で6月まで計画を大幅に下回っていましたが、7月以降傷病利用が増加し稼働実績は前年比97・0%、計画比95・6%となりました。

乳牛導入事業は、年度当初の相場の高止まりもあり買い控え傾向でしたが、8月以降は乳量確保の動きもあり計画を上回りました。預託事業は、放射性物質の影響により入牧が遅れ計画を下回りました。

5、改良

凍結精液販売は、乳用牛精液が前年を上回る実績となりましたが、肉用牛精液は昨年販売実績のあった大口配布が無かったことや、震災・原発事故の影響もあり、和牛

市場価格の低迷等から前年、計画とも大幅に下回り、乳用牛と肉用牛を合わせた実績は2万2655本で計画差4645本減の計画比83・0%に留まりました。受精卵販売は、大口利用が継続していることから計画を上回る実績となりました。

登録業務は、北海道全共が中止となったこともあり計画に見込んでいた証明書の発行が無かったことや、昨年度の自動登録の登録掘り起し等の反動もあり取り扱い件数は計画比89・3%となりました。

6、診療

繁殖検診事業は、ほぼ計画通りで推移しました。乳房炎防除事業は、バルクスクリーニング検査を宇都宮・県南支所は全戸で実施し、那須高原支所では2地域酪農組合と3支部での取り組みがあり計画を大幅に上回りました。受精卵移植事業は、採卵・移植とも計画を上回りました。特に和牛で、震災により芳賀分場が被災したため、採卵依頼が多くなったことと、員

外採卵が多く計画を上回りました。

7、牧場及びアグリサポート

牧場事業は、ふれあい牧場の飼養・草地管理全般の作業等をアグリサポートに全面委託し、運営管理の改善を進めることができました。しかしながら、放射性物質の影響により土上平、小林、霧降の各放牧場での放牧が制限され、預託頭数は2242頭（前年比85・0%、計画比79・7%）に留まり、収支については事業利益407万円（前年比38・3%、計画比54・9%）と計画を大幅に下回りました。

アグリサポート事業は、受託事業で土上平放牧場の草地更新作業増と組合員からの受託作業増により受託面積で110・1ha（前年比524・3%、計画比193・2%）と前年、計画を大幅に上回る実績となりました。人的支援については要望が少なかったため作業時間634時間（前年比94・6%、計画比90・6%）に留まりました。収支については事業利益1

416万円（前年比182・4%、計画比138・1%）と計画を大幅に上回りました。

上半期は、牧場事業のマイナスをアグリサポート事業が補完する形となりました。

8、経営管理

事業管理費は震災復旧に関わる施設等の修繕があり計画差4533万円増の4億5245万円の実績となりました。

特記事項として、事業外収入に関係団体等からの災害見舞金（3181万円）を計上いたしました。

なお、昨年度決算で震災復旧に要する費用を「災害損失特別勘定」として特別損失に計上しましたが、対象となる3施設（本所、高根沢配送センター、那須高原CS）の復旧工事の完了に伴い、上半期は「災害損失特別勘定引当金取崩」（4051万円）を特別利益で計上しました。



TPP交渉への断固阻止に向けた取り組みについて

昨年10月の菅直人首相からの突然の参加検討表明から始まった本問題ですが、組合においても本年6月の通常総会において「TPP交渉への参加断固阻止に関する特別決議」が採択されました。

その後、国民的議論がなされな
いまま、11月のAPEC首脳会議での交渉参加表明が濃厚となったことから、各種反対団体（農業・消費・医療等）が連携し、危機感を持って精力的に交渉参加断固阻止に向けた運動が全国的に展開されました。

当組合も日本酪農政治連盟・JAグループ栃木の一員として組合員、役員が各集会・デモ行進等へ積極参加し国会議員、国民に向け「なぜ、反対なのか」理解を求める抗議活動を実施しました。

APEC首脳会議で野田首相は「日本政府は交渉参加に向けて関係国との協議に入る」と述べ、交

渉推進派・反対派双方にとって都合のよい解釈の発言でありました。断固阻止に向けては、これからが本場の意味での正念場となります。今後とも予断を許さず関係団体と行動を共に取り組んでいかなければなりません。

活動状況

●9月5日 東京 日本青年会館
主催 酪政連

「TPP交渉断固反対 全国酪農民総決起大会」1500人規模集会、集会后デモ行進

●10月17日 東京 新宿駅前
主催 関東地区酪政連協議会

「TPP交渉参加断固反対」街頭活動

●10月20日 宇都宮 マロニエプラザ
主催 JAグループ栃木

「TPP交渉への参加阻止県民大会」3000人規模集会

●10月26日 東京 日比谷野外音楽堂
主催 JA全中他

「TPP交渉参加に反対し日本の食と暮らし・いのちを守る全国決起集会」3000人規模集会、集会后デモ行進

●11月4日 東京 憲政記念館
主催 TPPを考える国民会議
「TPPを考える国民会議 総決起集会」

●11月5日 東京 有楽町
主催 TPPを考える国民会議

「TPPを考える国民会議 街頭演説会」演説会終了後デモ行進

●11月8日 東京 両国国技館
主催 JA全中他

「TPPからの日本の食と暮らし・いのちを守る国民集会」6000人規模集会

●11月10日 東京 議員会館前
主催 TPPを考える国民会議
「TPPを考える国民会議 座り込み集会」



11/5 TPPを考える国民会議 街頭演説会



9/15 TPP交渉断固反対 全国酪農民総決起大会



東西南北

那須高原支所

支所活動推進協議会講演会開催

くアナウンサー 鹿島田千帆の

アクセティビティく

11月24日、支所において活動推進協議会（臼井勉会長）による研修会を組合員及び関係者を含め約百名の参加者を得て、エフエム栃木



の鹿島田千帆氏を講師に招き開催いたしました。当日は晩秋の冷たい風が吹く中、牛舎や車の中で聞き覚えのある優しいそよ風を語りかけるような明るい口調に、皆耳を傾け、実のある時間を過ごしました。

鹿島田氏は月・火曜日の生放送を受け持ち、毎日取材で県内を駆けずり回り、一児の母としての忙しい中、国内A級ライセンス、ワインコーディネーター、ダイビングの資格等を次々と取り、今でも宇都宮大学で工学博士として研究を続けております。何事も前向きに考え、忙しいからと諦めるのではなく時間を有効に使いどんなことにも挑戦していくことが大切であると、参加者は共感し、元気づけられました。

最後に、今回の講演会をお願いするにあたり、鹿島田氏がおっしゃっていた言葉を紹介いたします。「食べ物を作る人たちは日本の宝です。高い倫理観がないと出来ないお仕事、その仕事に携わる人たちはすごく素敵です。」

宇都宮支所

支所活動推進協議会全体研修会

「酪農セミナー」開催

12月5日、宇都宮支所研修室において、支所活動推進協議会（小林幸雄会長）による「酪農セミナー」が開催されました。

今回は丸紅株式会社穀物部穀物マーケティング課の徳平英晃氏をお招きし「国際情勢と飼料原料情勢について」ご講演頂きました。

主にトウモロコシ情勢について、「今後南米や中国の生産量増加が見込まれており、コーン単収は2050年には現在の1.5倍にまで増加するが、中国の需要も勢いを増し、さらに世界人口も1.3

倍増加の見込みである。さらに、現在米国のエタノール需要も飼料用を上回る勢いであることから、このままでは必ず長期的にタイトな需給が続く。」との非常に厳しい内容でした。また、「エタノール需要が減少しない限り、この現状は打破できない。むしろ米国はエネルギーより食糧の方を優先し、

これからはエタノール生産を縮小すべきだ。」と訴えておられました。参加者からも活発に質問が飛び交い、厳しい現況をこれからどう乗り越えていくか、ますます無駄をなくし知恵をしぼる経営が必要になってくると実感させられた研修会でした。

午後の部として県央家保より「家畜伝染病予防法改正について」、具体的な農場での対策について説明を頂きました。まずは口蹄疫などの伝染病を出さないよう努力することが何より重要だと理解でき、今後ますます衛生管理に注意を払うよう再認識しました。



県南支所

地域酪農組合主催合同研修会開催

11月9日、芳賀地域酪農組合（山口文男組合長）と河内南部・下都賀地域酪農組合（杉野昇組合長）による合同研修会が、県南支所において開催され、49名が受講されました。研修内容は、家畜伝染病予防法改正等に関する詳細について、栃木県中央家畜保健衛生所主査の竹澤友紀子氏から説明を頂きました。今回の法改正は、口蹄疫の発生や高病原性鳥インフルエンザの発生状況等を踏まえ、主に発生の予防や早期の通報、迅速な初動等によって家畜防疫の強化に重点を置いた改正となり、これに伴い定期報告が義務付けられたことです。平成24年からは毎年2月1日時点の状況について、基本情報をはじめ飼養衛生管理基準の遵守状況、及び関係書類等を報告することになります。

支所協議会主催全体交流会開催

12月7日、支所活動推進協議会（山口文男会長）主催の全体交流

会が晴天のなか県南支所において開催され、組合員や家族・従業員及び各関係業者の方々等、約百名が親睦を深められました。当日は、坂主副組合長から酪農情勢について報告を頂き、その後恒例のバーベキューとビンゴゲームで大いに盛り上がりました。会場内は笑い声と活気に満ちあふれ、参加者は明日への活力に繋がる、有意義な一日となりました。

最後に、今年も昨年に引き続き、組合員同志の“絆”を大切にしながら、支所の各事業等を展開していくことが、酪農の活性化と個々の経営向上に繋がることと信じています。



部課だより

生乳販売課

11月度組合の生乳生産量は、前年比100・5%（1万6299t）と、今年度初めて前年を上回る状況に回復しましたが、関東生乳販売の受託乳量は前年比98・9%と前年を割り込んでいる状況が続いております。大きな要因としましては、関東南部の生産量が現在も回復していないため、この状況は来季へ影響を及ぼすのではないかと懸念されています。

各支所別の生乳生産量・乳質成績はグラフのとおりで、宇都宮支所管内の生産量の回復が待たれる状況となっております。また、出荷組合員数は530戸（前月531戸、前年550戸）その内、学校・公共団体は4戸でした。

11月の関東生乳販売連内の用途別販売状況は、生産量の減少以上に飲用需要が減少しており、飲用牛

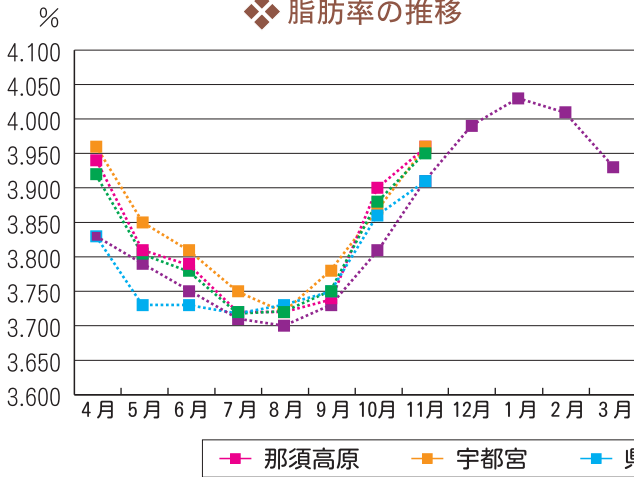
乳向け処理量は前年比98・3%となり、そのため加工率は5・09%と前年を0・79ポイント上回る実績となりました。

4～11月累計の組合生乳生産量は13万2911t（前年比97・9%）と回復基調にあり、当面の間はこの状況が継続することと予測されます。

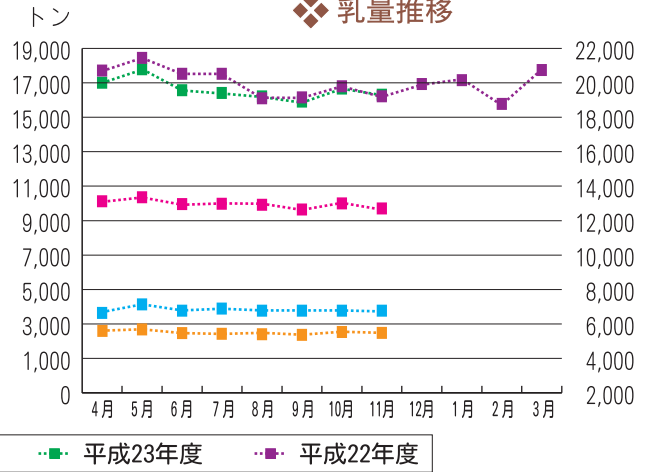
関東の累計受託乳量は74万9007t（前年比94・8%）と大きく前年を下回り、この原乳不測の状況が、年末頃まで続きましたが、新年になり不要期と飲用消費の減退が重なり加工率が高まる状況です。



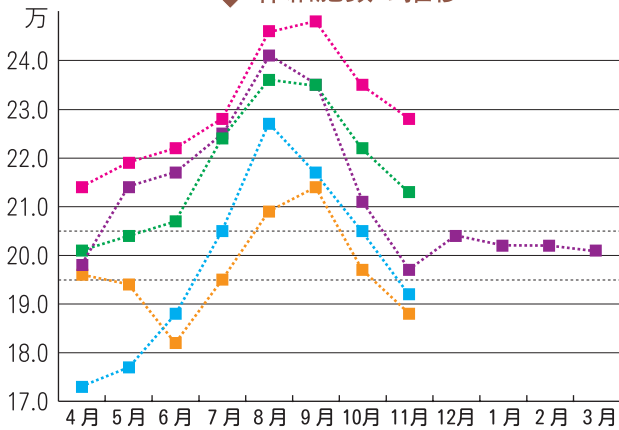
◆ 脂肪率の推移



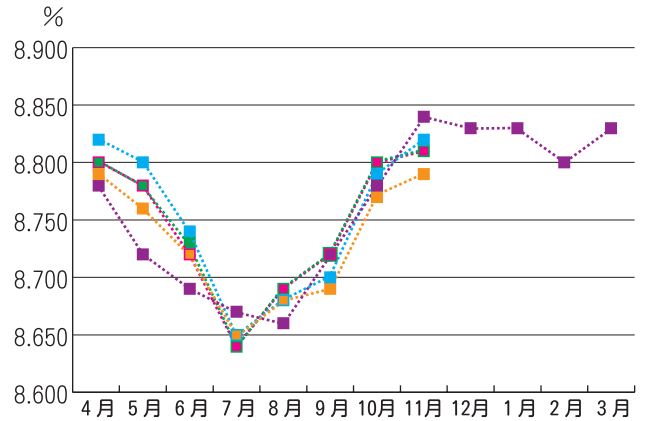
◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



指導企画課

女性会全体研修会開催

12月12日、ホテルエピナル那須に於いて、酪農とちぎ女性会会員154名の参加を得て、全体研修会が開催されました。

講演会に先立ち菊池組合長より震災・原発事故を踏まえた酪農情勢報告を頂きました。

講演会は、酪農とちぎ診療課長の吉成課長に「楽しくなる酪農経営は」と題して講演頂き、ユーモアたっぷりにクイズ形式も交え、とても楽しく話を聞くことができました。

また、女性会の役員であり、栃木県女性農業士として幅広くご活



躍されております那須烏山市の興野礼子さんに、農村女性の地位向上と能力発揮を図るため栃木県で取り組んでいる「第3期とちぎの農業・農村男女共同参画ビジョン」についてお話を頂きました。

参加者からは、「講演の内容を少しでも経営に活かせるよう実践したい。」とか「第3期ビジョンと聞くと何か難しそうだけど、家族経営協定や地域での様々な活動なども男女共同参画であると具体的に分かりました。」などの感想も頂きました。

講演会終了後は懇親会場に移動し、昼食を取りながら会員同士和気あいあいと会話を楽しみ、有意義な時間を過ごしました。





8月度理事会（8月30日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合プール乳価について
- (四) 固定資産取得計画に基づくPC・複合機等の入札結果について
- (五) 集乳車ハンディシステムの更新について
- (六) ふれあい牧場に関わる農機具等の入札結果について
- (七) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 近代化資金貸付について
- (二) 7月度事業実績について

9月度理事会（9月29日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合プール乳価について
- (四) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 8月度事業実績について

- (一) 平成23年9月分乳代の送金日について

10月度理事会（10月28日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 近代化資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 那須高原支所外壁塗装及び那須高原CS鉄骨塗装の入札結果について
- (六) 酪農経営中期計画調査結果について
- (七) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 9月度及び上半期事業実績について

11月度理事会（11月30日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合プール乳価について
- (四) 平成23年度上半期定期監査報告について
- (五) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 10月度事業実績について

- (一) 遊休資産の処分について
- (二) 年末手当の支給について

お知らせ

新入職員紹介



11月1日 入組
田波絵里香（獣医師）
業務部診療課配属

青森県の開業獣医の下で勤務しておりましたが、このたび縁がありお世話になることになりました。小山市出身です。

皆様の負託に応えられるよう一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

酪農とちぎブランド牛乳の消費拡大にご協力をお願いします

12月度 ホクレン初妊牛市場成績（単位：千円（税込））

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	（そのうちET牛）		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十勝	12月6・7日	1226	962	78.5%	513	101	93	635
南北海道	12月9日	125	93	74.4%	428	2	1	500
豊富	12月9日	561	414	73.8%	460	4	4	577
北見	12月14日	446	293	65.7%	467	1	1	621
釧路	12月15日	813	620	76.3%	483	46	39	603
根室	12月16日	516	396	76.7%	465	2	0	0
合計		3,687	2,778	75.3%	483	156	138	623
前月		4,057	2,879	71.0%	478	228	179	565
前年同月		3,469	3,098	89.3%	530	202	189	657

12月度家畜市場成績（単位：円（税込））

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 (12/15)	ホルス雄	134	131	60	39,900	530	18,757
	F1雄	93	92	55	144,900	14,700	94,728
	F1雌	75	72	52	78,750	6,300	47,250
館林 (12/17)	ホルス雄	3	3	85	24,150	23,100	23,800
	F1雄	19	19	95	145,950	107,100	130,090
	F1雌	14	14	89	124,950	54,600	89,025

年明けからの相場は例年高騰しているため、導入を希望される方は、早めの手当てが得策かと思われます。購買希望がありましたら、支所業務推進課あるいは本所指導企画課までお問い合わせ下さい。

交雑種・乳用種の肉相場が低迷しているため、全国的に見ても、スモール相場は安値で推移しているようです。

